

(別紙)

| No | 団体名 | 功績等 |
|----|--|--|
| 1 | <p>鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会</p> <p><表彰分類></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全のための技術等の開発・普及に関する功績 ・廃棄物の適正処理の確保又は4つのRの推進に関する功績 | <p>○設立当時、認定商品のほとんどが土木資材であり、一般県民への制度の普及促進が図りにくいという背景を踏まえて、一般県民向けの商品開発や認定制度のPR、利用拡大への活動を展開してきた。</p> <p>○イオン日吉津店で開催する独自の展示会だけでなく、県内で開催される様々な環境イベント等に積極的に出展。また、1週間程度の常設展示をリレー形式で行うリレー展示会を6月の環境月間に併せて実施。これまで県内の大学、高校、公民館、自治体施設など多くの場所で展示会を開催して一般県民へのPRに努めており、県民のリサイクルに対する意識の向上及び認定商品の普及促進に貢献している。</p> <p>○平成17年の協議会設立当時90商品であった認定商品数は、現在416商品にまで増加。</p> |
| 2 | <p>株式会社ウッドプラスチックテクノロジー</p> <p><表彰分類></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全のための技術等の開発・普及に関する功績 ・廃棄物の適正処理の確保又は4つのRの推進に関する功績 | <p>○木質バイオマスやプラスチックの複合材料「ウッドプラスチック」で、建設業や物流業で使用される資材を製造。原料である木質バイオマス資源は製材工場から発生する副産物を、プラスチックはペットボトルキャップをリサイクルした再生プラスチックを使用しており、リサイクルに大きく貢献。</p> <p>○敷鉄板の代替製品である「Wボード」は、敷鉄板と比較して、製造及び施工時に排出される二酸化炭素量の大幅な削減が期待される。</p> <p>○令和元年5月に国が定めたプラスチック資源循環戦略では、プラスチック製品等の原料を再生可能資源(紙、バイオマスプラスチック等)への転換を目指していくこととされており、同社の事業はこれに貢献するものとして高く評価できる。</p> |
| 3 | <p>株式会社大協組</p> <p><表彰分類></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全のための技術等の開発・普及に関する功績 ・廃棄物の適正処理の確保又は4つのRの推進に関する功績 | <p>○焼却灰を盛土材等の建設資材へとリサイクルする技術を独自に開発し、特許を取得。</p> <p>○県内企業の発電ボイラーなどから発生する焼却灰を調達し、盛土材にリサイクルする事業を展開。</p> <p>○特許技術をベースにした、様々な製品(防草材、浚渫土改良材など)の開発を進め、使用用途の拡大を図っている。</p> <p>○焼却灰リサイクルの特許技術により、最終処分量の減少や廃棄物のリサイクル推進、地域での資源循環の実現に大きく貢献。</p> |